

## 大学の教育研究組織

---

大学には教育研究組織があり、学部、学科、研究科、研究所と分かれています。“学部”は、学士課程の教育が行われる機関です。英語名称は“faculty”となります。日本では“学部”を“school”と表すことはありません。学部をfacultyという単語で表す場合、教員、職員、生徒は全て“members of a faculty”＝ 学部のメンバーという意味になります。中央大学は、法学部、経済学部、商学部、理工学部、文学部、そして総合政策学部の6学部を設けています。

日本では“faculty”とは他の意味をもつこともあり、例えば、“学部の在職教員”という意味で“faculty”が使われる場合があります。この場合、生徒は（教員メンバーではないので）“members of a faculty”とは言いません。

“学科”は、学部の下に通常設けられる専攻別に分けられた組織で、英語名称は“department”となります。しかし、“faculty”という単語を在職教員という意味のみで使っているいくつかの大学では、“department”＝“学部”という意味で使っています。この場合、学科という意味の英語表記は、“department”ではなく、“sub-department”, “course”, “division”などで表されています。

“研究科”は、大学院の基本となる教育研究組織のことです。英語名称は“school”となります。研究科の下に“専攻”が設けられています。英語名称は通常、“course”や“major”となります。

“研究所”は、研究室の事であり教育機関ではありません。英語名称は“institute”です。しかし、国立大学のいくつかの大学院は研究所と呼ばれ、教育機関であり、研究に基づいて質の高い教育がおこなわれています。主に私立大学に設けられている研究所は、学位はなく、高度で実践的な研究を行う場所になっています。

例えば、中央大学は経理研究所の会計経理コース（学位なし）で有名です。それに加え、“institute”とは他の意味をもつこともあり、大学によっては“institute”＝“全大学”と意味しています。“東京工業大学”は英語名を“Tokyo Institute of Technology”と表記し、それにあたります。